

「感染・療養状況、大阪モデル黄色信号点灯、及び 府民等への要請」に係る専門家のご意見

専門家	意見
朝野座長	<p>○感染状況について 北海道では急速な、それ以外の地域でも明らかな増加傾向がみられている。特定の変異株の置き換わりはとらえられていないため、人流の増加、気温の低下、換気の不足に伴う感染者数の増加が原因と考えられる。流行している株は BA.5 であるため、現状では重症化率の上昇はないが、<u>医療がひっ迫すれば、致命率が上昇する可能性がある。そのためピークを抑え、感染者数に応じた事前の医療体制の整備が必要。</u></p> <p>○療養状況について 感染者数の増加に応じて軽症中等症病床、宿泊施設、自宅療養の増加傾向がみられている。感染者数の増加の速度と程度で医療のひっ迫度は決まるので、感染者数の増加の抑制策と同時に、必要に応じた医療体制の拡大、入院等の重点化を柔軟に行うことが計画されていると評価できる。<u>年末年始のインフルエンザと同時流行となる本格的な第 8 波に備えて、さらに診療・検査医療機関の拡大が望まれる。</u></p> <p>○黄信号点灯について 感染者数の増加は、人流の増加によるものと考えため、<u>行動変容を促すことを目的とする黄色信号点灯は有効な手段である。府民の皆さんの注意警報に対する慣れをどのように克服するか</u>の広報面での工夫も必要。</p> <p>○府民等への要請内容について <u>要請内容は妥当である。黄色信号の受け止めを含めて、府民への要請を府民の皆さんがどのように受け止められるか、リスクコミュニケーションの専門家の意見も参考にされながら工夫をしていただきたい。</u> 細かな疑問になるが、第 8 波に向けて推進されている臨時の発熱外来の受診時に公共交通機関の利用が可能か否かなど、具体的な運用マニュアルが知りたい</p>

専門家	意見
掛屋副座長	<p>○感染状況について <u>全世代にわたり新規陽性患者の増加傾向、および検査陽性率の上昇傾向が認められ、第8波の入り口にある可能性がある。今後の流行状況や新規変異ウイルスの出現状況を確認する必要がある。</u></p> <p>○療養状況について <u>現在、重症病床利用率は限られるが、軽症・中等症病床の利用率は上昇傾向が認められ、今後ステージアップの準備が必要になると考える。高齢者の入院患者が多いため、入院の長期化も危惧され、後方支援病床を含めた有効な病床活用が期待される。</u></p> <p>○黄信号点灯について <u>新規陽性患者が明らかな増加にあり、病床使用率が目安に達したことから、黄信号点灯に賛同する。一方で、新型コロナと経済活動との両立が求められ、府民への黄信号点灯のメッセージが薄れている可能性もある。メッセージの発出も工夫が必要と考える。</u></p> <p>○府民等への要請内容について <u>高齢者の4回目接種はもとより、若年者への3回目の新型コロナワクチン接種が期待される。オミクロン株 BA4/5 の2価ワクチンに移行していることの情報提供を行い、接種推奨を行うことを願う。また、今冬は季節性インフルエンザの流行が危惧される。過去3年間流行がなかったため、抗体を保有している割合が減っていることが報告されている。高齢者等に限らず、<u>全世代にワクチン接種を呼びかけることが望ましいと考える。</u>インフルエンザワクチンの公費負担の対象は限られるが、企業や学校等を通じてワクチン接種を呼びかけることは府民の健康維持における強いメッセージとなると考える。また、今後も感染対策の基本を再確認し、日々の生活の中での実施いただくことが重要と考える。</u></p>

専門家	意見
木野委員	<p>○感染状況について 当院における印象からも、<u>感染が再び拡大する傾向にある</u>。資料 1-1、資料 1-2 と同様の印象を持っている。入院される患者さんの重症度は第 7 波と同様に大多数は軽症・中等症である。まだインフルエンザの流行は見られないが、第 8 波とインフルエンザの同時流行は十分に警戒が必要だと考えている。</p> <p>○療養状況について 11 月 7 日に新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ病床の病床使用率が 20.9%へと増加、軽症・中等症の病床使用率が 23.3%となったとのことだが、当院でのコロナ入院患者の動向からも同様の印象を持っている。</p> <p>○黄信号点灯について 大阪府の基準に従って、<u>緑色から黄色信号への点灯に同意する</u>。</p> <p>○府民等への要請内容について 昨今我が国全体で感染対策が緩和されているように感じる。さらに、本年のオーストラリアにおけるインフルエンザと新型コロナ感染の同時流行、海外からの旅行者が急増している状況を考えると、今年の冬は我が国でもインフルエンザと新型コロナの同時流行が大いに危惧される。そして同時流行することで重症例や死亡者の増加が懸念される。さらに虚血性心疾患や脳血管障害、肺炎等が増加する季節である。<u>コロナ病床を確保することで、それらの一般医療が制限されることは絶対に避けなければならない</u>。ここで改めて府民に注意を喚起することが重要である。ワクチン接種に関しては、アナフィラキシーや様々な副作用についての情報が SNS を通じて拡散されている。その結果、高齢者等、必要な方へのワクチン接種率が低下しているように思う。<u>ある一定の確率で起こる副作用等のネガティブな情報も行政からしっかりと情報提供し、その上でワクチン接種の有効性を府民にアピールしていただきたいと思う</u>。</p>

専門家	意見
<p>忽那委員</p>	<p>○感染状況について 新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は <u>10月上旬を底に緩徐に増加傾向にある</u>。第6波、第7波のときのような急激な拡大ではないものの、底であった10月上旬の時点で週1万5千人と規模が大きいことから、<u>このまま拡大が続けば医療に与える影響は深刻となる可能性がある</u>。</p> <p>○療養状況について 現時点では医療機関は逼迫している状況ではない。<u>インフルエンザとの同時流行が起こる可能性を考慮すると、入院病床も重要ではあるが、発熱外来の逼迫の方が深刻になる可能性があり、発熱外来を行う診療所・医療機関を少しでも増やしていくことが重要と思われる</u>。</p> <p>○黄信号点灯について <u>妥当と思われる</u>。</p> <p>○府民等への要請内容について <u>異議はないが、オミクロン株対応ワクチンが利用可能となっており、高齢者だけでなく小児においても接種率を高めることが流行の規模を小さくするためには重要である。第7波においては小児の重症例が全国的にみられたが、大阪府の小児のワクチン接種率は全国でも低く、大阪府にはより積極的な接種推進を求めたい</u>。</p>

専門家	意見
白野委員	<p>○感染状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は微増の状況であるが、くすぶっていたオミクロン変異体 BA.5 型が、気温低下や人の移動の増加とともに再燃してきたものと考えられる。 <u>XBB 型、QS.1 型などの派生型については、引き続き注視しなければならない。</u> ・最悪のシナリオとしては、 →コロナもインフルエンザも大流行し、重症者も増えることが考えられる。 コロナについては XBB 型、QS.1 型などの派生型が増加し、拡大する。さらに新たな変異体または派生型が出現し、国内でも拡大する。 インフルエンザについては、海外との往来の再開に伴い流行拡大する。3 年近くインフルエンザが流行していなかったため、インフルエンザウイルスに対して免疫がない人が増え、流行が拡大するのみならず、重症者も増える。 ・コロナは新たな変異体（派生型）が出現しない、インフルエンザは人々のマスク着用などの効果で、2019 年までの冬期ほども増えない、など楽観的な見方もありうるが、<u>現時点では最悪のシナリオを想定しておかなければならない。</u> <p>○療養状況について</p> <p>第 7 波と同様であれば、コロナ自体の重症者はそれほど増えず、<u>発熱外来などの外来診療機関や、軽症中等症病床のひっ迫が予想される。</u> しかしながらこれまでと同様、<u>陽性者の絶対数が増えれば、重症者も増え、コロナ自体は重症でなくても他の理由で重症病床を使用する必要がある患者も増加する。結局のところ重症病床もそれなりに必要となる。特に冬場を迎え、肺炎や脳・心血管系の疾患は増え、救急搬送困難事例も増えると予想される。</u> <u>現在でも内科を標榜していても、「発熱患者はお断り」の医療機関が多数存在する。発熱患者の対応ができる医療機関をさらに増やしていく必要がある。</u></p> <p>○黄信号点灯について</p> <p><u>新規陽性者数、病床使用率から判断すると黄信号点灯はやむを得ない。</u></p>

専門家	意見
白野委員	<p>○府民等への要請内容について 提示いただいた要請内容でおおむね問題ないとする。</p> <p>・ワクチンについて「接種していてもどうせ感染する」「副反応の割に感染予防効果が少ない」「何度も接種していれば効果が落ちる、有害事象が増える」などの理由で接種を見送る人が多い。</p> <p>→確かに感染予防効果は経時的に低下するが、<u>一定の効果はあること、重症化予防効果は高いことなどを強調し、特に高齢者、基礎疾患を有する人などハイリスク者はもっと積極的に接種するよう、呼びかけていく必要がある。</u></p> <p>・冬場になり、換気が不十分となるケースが予想される。換気についてはあらためて強く呼びかけていただきたい。</p> <p>・オンライン診療、セルフ検査などは医療機関への受診集中を防ぐために有効な方策であることに異論はない。</p> <p>しかしながら、<u>コロナでもインフルエンザでもない他の重大な疾患の診断遅れにつながることに留意すべきである。</u>実際、コロナが陰性ということで安心して自宅療養していて、状態が悪化したり診断が遅れたりした他疾患の例は枚挙にいとまがない。また、コロナ陽性であっても、相変わらず自宅療養中に悪化する例もある。<u>医療機関側にも一般府民向けにも、経過が思わしくない場合は速やかに受診することをあらためて呼びかけていただきたい。</u></p>
高井委員	<p>○感染状況、療養状況について</p> <p>・感染の流行しやすい条件（気温の低下等）が揃う中、コロナ禍以前に近い形で社会活動が行われている。日本国内では感染再拡大の傾向が見られる地域があり、<u>大阪府においても次の波に突入するのは時間の問題である。</u>今後、どのタイミングで（新型コロナウイルスの）リバウンドが生じるのか、スピード感を含めて動向を注視する必要がある。</p> <p>○黄信号点灯について</p> <p>・若年層における感染増加の傾向を踏まえると、<u>黄色信号の点灯は妥当。</u>新規陽性者数に含まれない形で一定の感染者が存在することを想定すれば、早い段階でアラートを出すことは理にかなった対応である。</p> <p>○府民等への要請内容について</p> <p>・既に指摘されている通り、<u>インフルエンザとの同時流行に備え、各種ワクチン（新型コロナ・インフル）の接種を前向きにご検討いただきたい。</u>また、ワクチン接種等を通じて、この機会にご自身で『かかりつけ医』を見出していきたい。</p> <p>・旅行や飲食を行う際は、<u>感染リスクの高い行動を控え、体調に不安を感じる場合は自宅で安静をお願いしたい。</u>また、引き続きの感染予防策（手洗い・手指消毒・不織布マスクの着用←鼻までしっかりと覆うことがポイント）を講じていただきたい。</p>

専門家	意見
<p>倭委員</p>	<p>○感染状況について 直近 1 週間の新規陽性者数は 3,154 人/日で、前週の約 1.27 倍となり、4 週連続で増加している。年代別の新規陽性者数の前日増加比は、全年代において 1 を上回った状態が継続している。陽性者登録センターにおける自己検査数が増加傾向にあり、感染拡大兆候探知の指標となる 20・30 代の新規陽性者数 7 日間移動平均前日比も 1 を超過している。また、陽性率が 10 月下旬より増加傾向にある。さらに、高齢者施設のクラスターが施設数、陽性者数ともに前週より増加している。一方、季節性インフルエンザについては現段階では、早期の流行や拡大は見られていない。</p> <p>○療養状況について 病床使用率が 11 月 7 日現在、20.9%と上昇傾向にある。軽症、中等症病床使用率は 23.3%と増加傾向にある。また、宿泊療養者数、自宅療養者数も増加傾向にある。</p> <p>○黄信号点灯について 上記より、新規陽性者数が明らかな増加傾向にあることがわかり、病床使用率が目安である 20%に到達したことより、大阪モデルにおける黄信号点灯は<u>妥当である</u>と考える。</p> <p>○府民等への要請内容について 大阪府の府民への要請内容について賛同する。第八波の感染拡大、及び医療逼迫を極力抑えられるように、<u>府民に対してはワクチン追加接種（子供のワクチン接種を含む）を検討していただきたい。またインフルエンザワクチンの接種も進めていただきたい。また、市町村に対しては休日等に対応できる臨時発熱外来の設置を進めていただきたい。高齢者施設に対しては引き続き、施設における基本的な感染防止対策を強化・徹底していただきたい。また、医療機関に対しては市町村における臨時発熱外来への出務等に協力していただきたい。</u></p>